

未来への提言

日本文明よ

『人類文明存続の大義』を掲げて生き続けよ！



惑星探査機ボイジャー1号

1977年9月5日打ち上げ

質量 721.9kg

電力 原子力電池(470W, 30V)

現在、太陽圏界面を突破して飛行中。太陽圏の外部には強い銀河宇宙線と銀河磁場があることを報告してきた。銀河磁場の向きが太陽磁場と同じであるという重要情報も報告してきた。

2013年に50歳を迎えた者が中学校2年生(14歳)の夏休みが明けた頃ボイジャーは打ち上げられました。ボイジャーは後12年は現役で働き続けます。

太陽圏

ヘリオスフィア
太陽由来の物質で
満たされている。

太陽圏界面

ヘリオポーズ

ボイジャー1号

187
億km

太陽風
(太陽宇宙線)

パイオニア10号

パイオニア11号

ボイジャー2号

銀河宇宙線

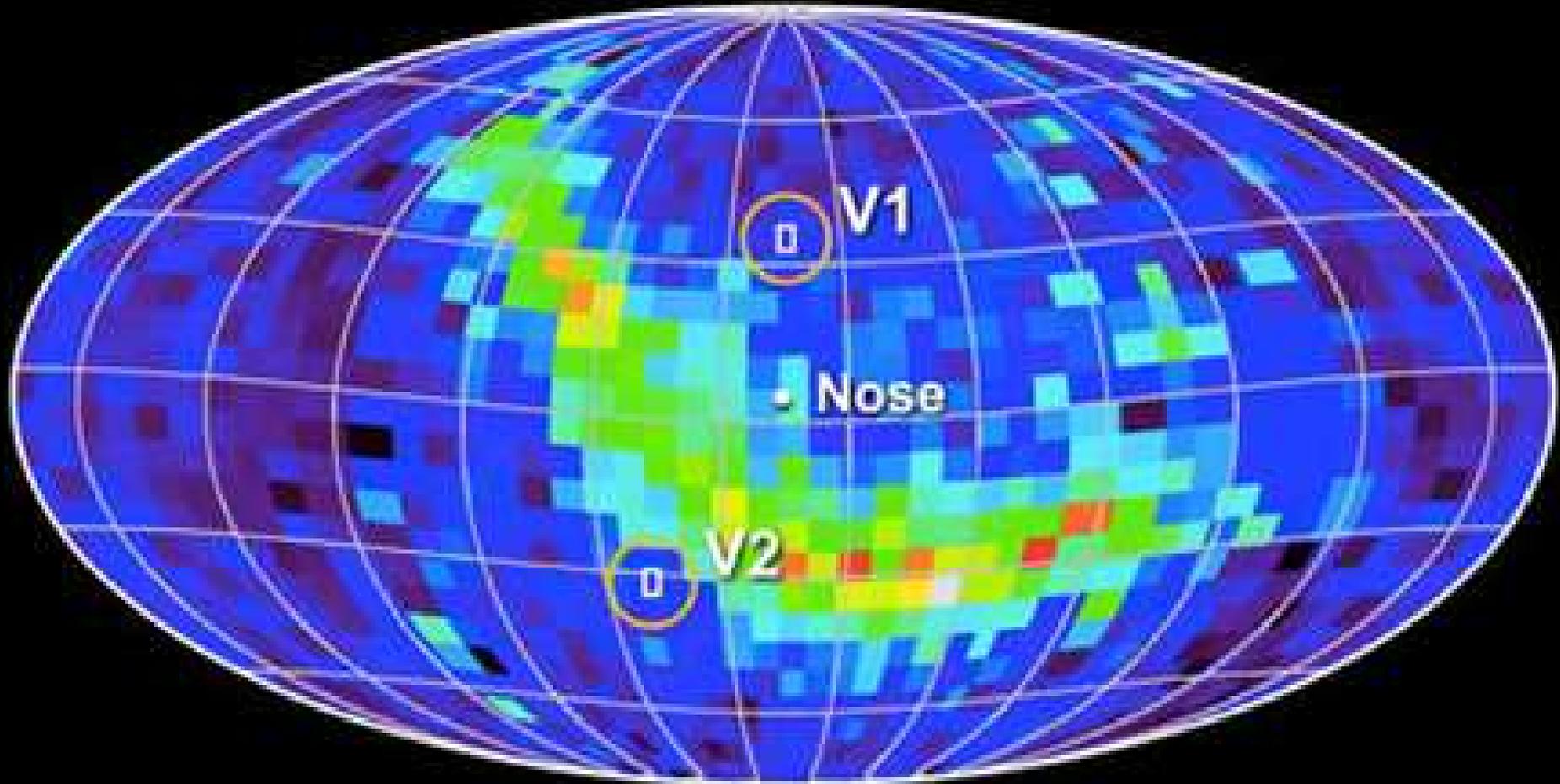
さそり座方向

末端
衝撃波面

銀河プラズマフィラ
メントの磁気の壁と
太陽磁場の衝突面

私たちの太陽系はさそり座の方向へ星間プラズマ(銀河宇宙線)の海を 約23km/s で突き進んでいます。そして今、銀河プラズマフィラメントの磁気の壁(太陽圏外磁場)に衝突を始めており、減速しだしているのです。

IBEX-Hi (0.9-1.5 keV)



Differential Flux [ENAs/(cm² s sr keV)]



IBEX (Interstellar Boundary Explorer) は太陽圏と銀河宇宙との境界からの中性原子分布図を作る目的で2008年に打ち上げられた人工衛星です。

IBEX は太陽圏境界面に”L”(エル)字の構造がある事を発見しました。”L”字の構造について外部磁場が影響している可能性があるのです。

当然、太陽圏が外部磁場に衝突していると考えられます。だとするならば、これから先、我々はどうなってしまうのでしょうか？

プラズマ宇宙論による解説

銀河系には2000億個から4000億個の恒星があります。

恒星と恒星の間は星間プラズマ(銀河宇宙線)で満ちています。

射手座方向にある銀河中心核には巨大ブラックホールがあります。ブラックホールに星間プラズマの質量の大きな原子核(正電荷)が優先して渦を巻きながら落ちてゆきます。

この時ブラックホールの周りには膠着(こうちやく)円盤ができます。膠着円盤は発電機を形成し銀河軸方向に電子JETを噴出します。その為、銀河中心核はプラス電位となり銀河の腕には電子の流れが出来るのです。この電子の流れをビルケランド電流と言います。

天の川銀河の想像図

銀河系中心

天の川銀河の中心から太陽系までの距離

26100 光年

太陽系

距離と運動が測定された天体

240 km/s

太陽系の銀河回転の速度

銀河の腕にビルケランド電流が流れるときアンペールの法則に従い銀河中心核に磁気力で結合した細長いストロー構造がたくさん出来ます。

このストロー構造を銀河プラズマフィラメントと言います。

またストロー構造の磁気の壁を銀河プラズマフィラメントの磁気の壁と言います。

銀河中心核が回転するとき、磁気力で結合しているストロー構造も一緒に回転します。太陽系はストロー構造の中にあります。

ストロー構造が回転するとき太陽系は400年に一度くらいの割合でストロー構造の磁気の壁、銀河プラズマフィラメントの磁気の壁に衝突して跳ね返るのです。

今がまさしくその時なのです。

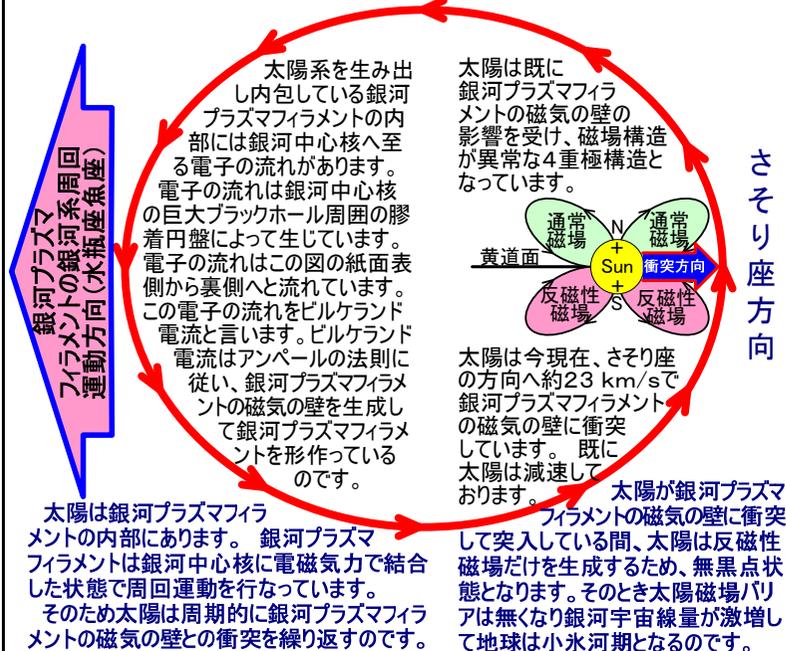
銀河系の直径は約10万光年、厚みは約1000光年です。イメージはCDディスクです。

天の川銀河を斜めから見た想像図

プラズマ宇宙論による解説

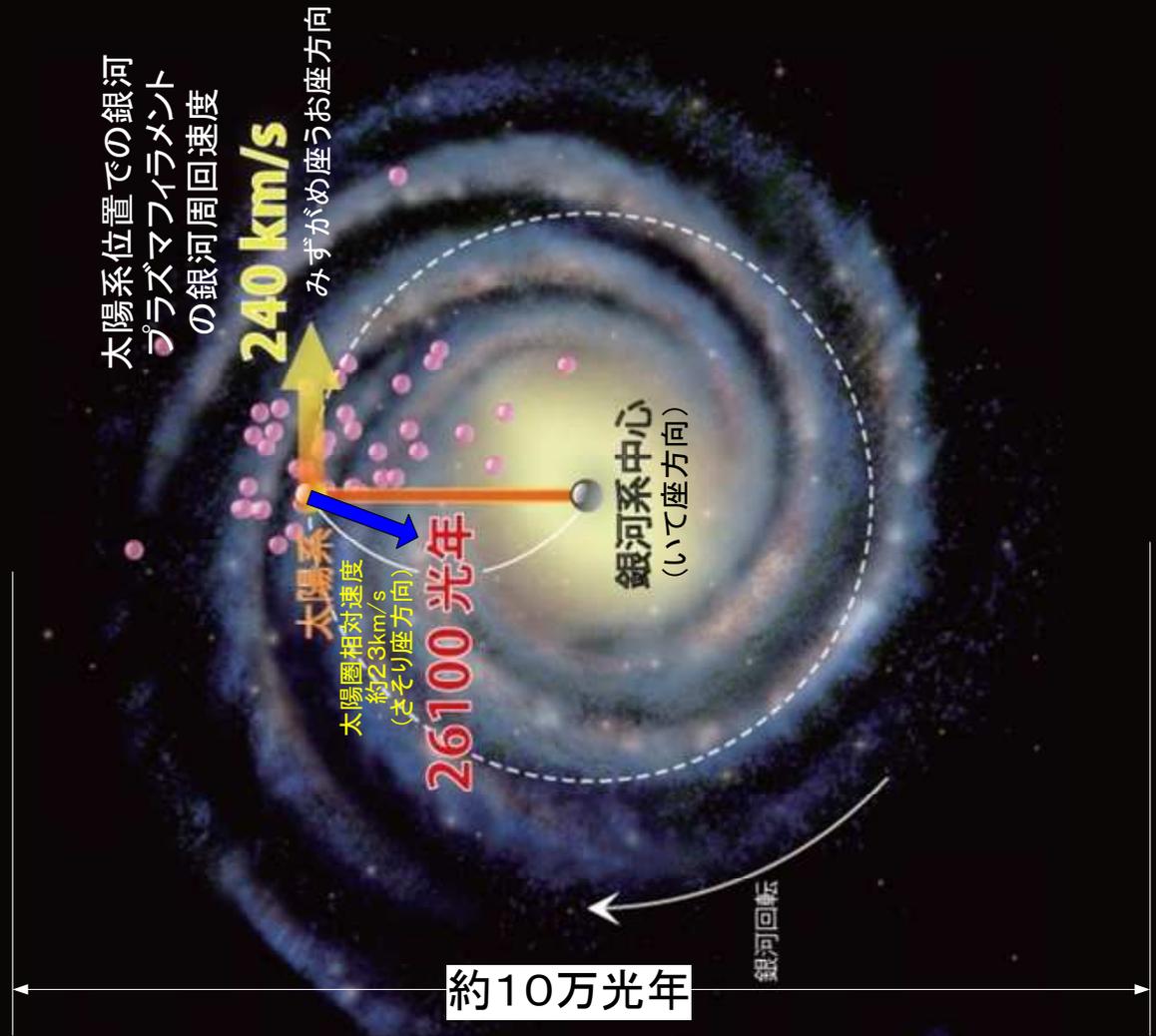
太陽は銀河プラズマフィラメントの磁気の壁に衝突して跳ね返る反磁性体です。太陽は今現在、さそり座の方向へ約23 km/sで銀河プラズマフィラメントの磁気の壁に衝突しつつあり、減速しています。太陽はこの後、2035年には銀河プラズマフィラメントの磁気の壁に突入し跳ね返り運動を起こします。

銀河中心核に電磁氣的に結合したストロー構造である銀河プラズマフィラメントの断面図



太陽が銀河プラズマフィラメントの磁気の壁に突入し跳ね返り運動している間、太陽は反磁性磁場のみの磁場生成を行い、無黒点状態の極小期となります。その時地球は小氷河期となるのです。小氷河期突入は2035年頃です。

銀河系を水平方向から見た様子(想像図)



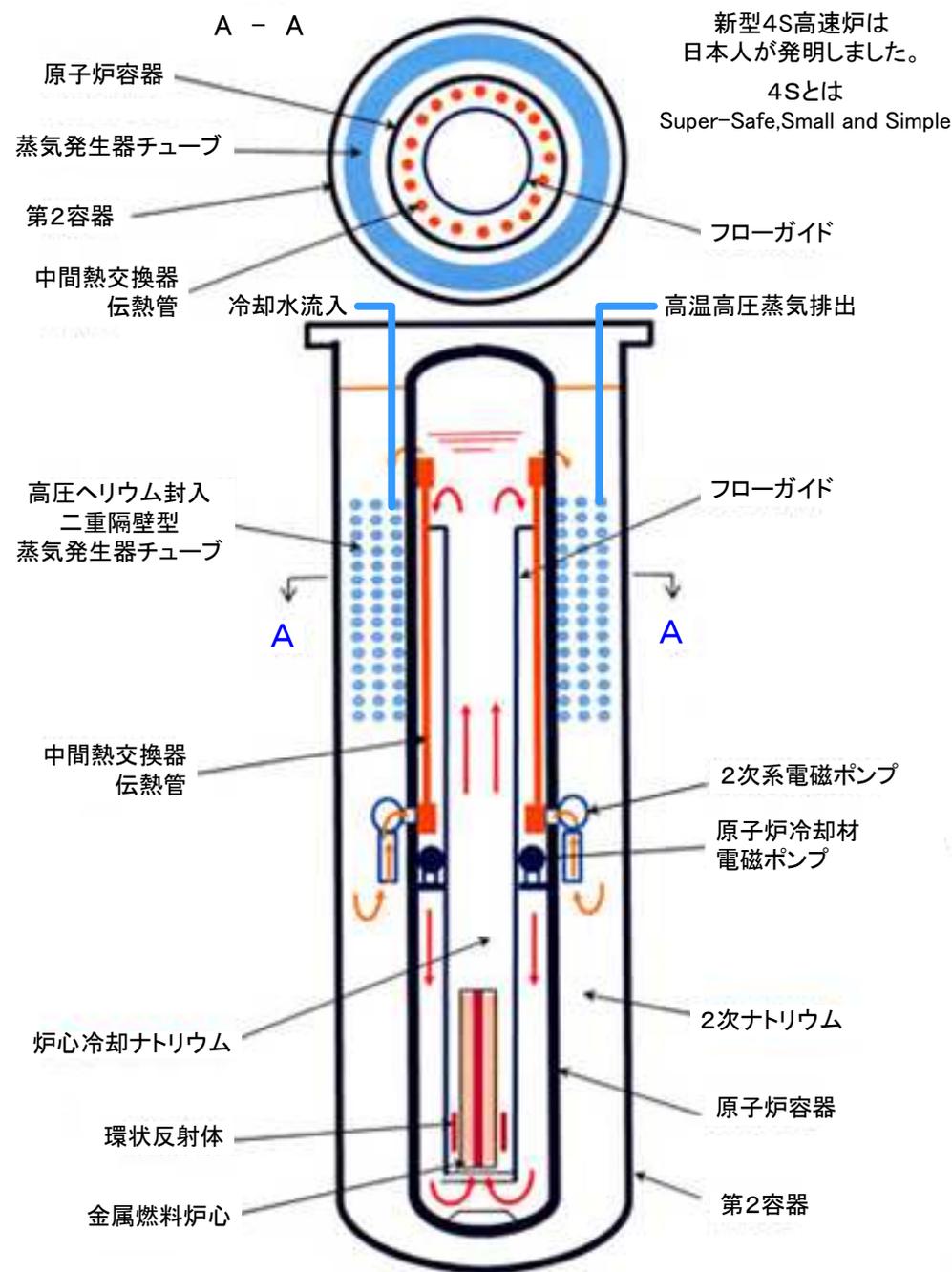
銀河系を垂直方向から見た様子(想像図)

新型4S高速炉は人類文明を救う夢の原子炉です。
小氷河期を生き抜くにはこの原子炉の全人類への普及が肝要です。

- (1) 新型4S高速炉は出力1万KW(10MWe)であり、小出力です。
発展途上国ではこのエネルギーで1万人が生存可能です。
- (2) 機械類を全て一個のカプセルに収め、事故を極小化します。
動く部品が無く、部品数が少なく故障の確率はほぼゼロです。
- (3) 炉心直径0.85m、炉心の高さ1.5m、と非常にコンパクトです。
- (4) 金属核燃料30年交換不要、核燃料を充填・封印して出荷します。
核燃料には核兵器転用不可能成分を混入し核拡散不可能です。
- (5) 負荷追従方式のため制御棒が無く、原子炉運転操作不要です。
- (6) 内蔵原子力電池ユニットの電源だけで30年間自動運行します。
- (7) 超小型、超安全のため、どこにでも設置可能です。
- (8) 二次ナトリウム系合理化で全部をカプセル内に一体化しており、
輸送・据付が容易であり、現場での工事作業が事実上ありません。
- (9) 1万キロワットと小容量で、冷却水遮断による緊急停止でも表面
放熱空冷する冷却構造を設置現場地形で形成しておき、自然冷却
安定します。
- (10) 設置面積は200㎡(14m四方、60坪)と非常にコンパクトです。
- (11) 大量生産により原子炉設備価格を十分の一以下にできます。
- (12) 旧型原子炉の核廃棄物を乾式再処理して核燃料にできます。
- (13) 旧型原子炉の高放射線廃棄物を燃焼して非放射化できます。
- (14) この原子炉の大量生産によって新たな産業を生み出します。

新型4S高速原子炉概念図(10MWe)

United States patent No.6,944,255 B2 (ナトリウム冷却高速炉)



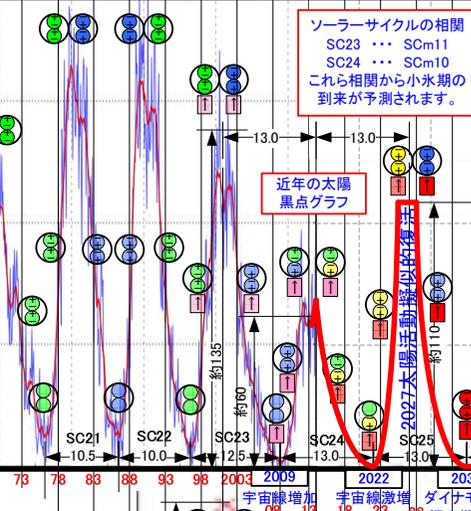
反磁性体太陽の太陽圏外磁場への衝突仮説に基づく マウンダー極小期と現代との歴史相関と近未来予測

神の見えざる手(宇宙線)が人類文明の歴史を創ります

- 太陽のダイナモ磁場(通常磁場)
- 太陽圏外磁場に反発する太陽の反磁性磁場
- ダイナモ磁場と反磁性磁場の混合磁場
- 太陽圏外磁場(ビルケランド磁場)の磁力線

下記のグラフはガリレオ・ガリレイの時代からの太陽黒点グラフの一部です。左上のグラフは近年の太陽黒点グラフです。近年のグラフは1600年代初頭に酷似しており、太陽圏探査機IBEX、惑星探査機ボイジャー、太陽観測衛星「ひので」、9、11、3、11、気候変動、等の多くの情報を統合して小氷河期を予測しました。

下段の年表は過去事象(黒)と現在事象及び未来の予測事象(赤)を表しています。未来予測に際して、過去事象同様な小氷河期が到来すると仮定して、太陽黒点グラフから相関年を割り出し、過去事象に相当する未来事象が起こる事を予測したものです。あくまでも予測である事をご理解ください。



2つの連続した極小期によって誕生した近代文明は人類を人口爆発させ、その状態で新たな極小期を迎えさせようとしています。想定される生存環境の極度悪化に際して、今のままのグローバル自由主義体制では自由思想に潜む弱肉強食性によって各々人類文明社会は相互破壊してしまい、総じて滅亡してしまう可能性があります。生存環境の極度悪化においても尚、多様な人類文明社会の存続を為すには、各々人類文明社会は『棲み分け』を絶対原理とし、自尊自立自営による『兼営ある孤立』を追求して、個別に文明存続を果たさなければなりません。『棲み分け』の掟を破る弱肉強食文明は人類文明の多様性保存のため消滅させるべきでしょう。

太陽が太陽圏外磁場に遭遇すると地球に大量の宇宙線が降り注ぎます。その結果、異常気象・地震・火山噴火が頻発し飢饉や戦乱が発生するのです。また、宇宙線は天才を誕生させ、ひらめきを与え文明創造する面もあります。

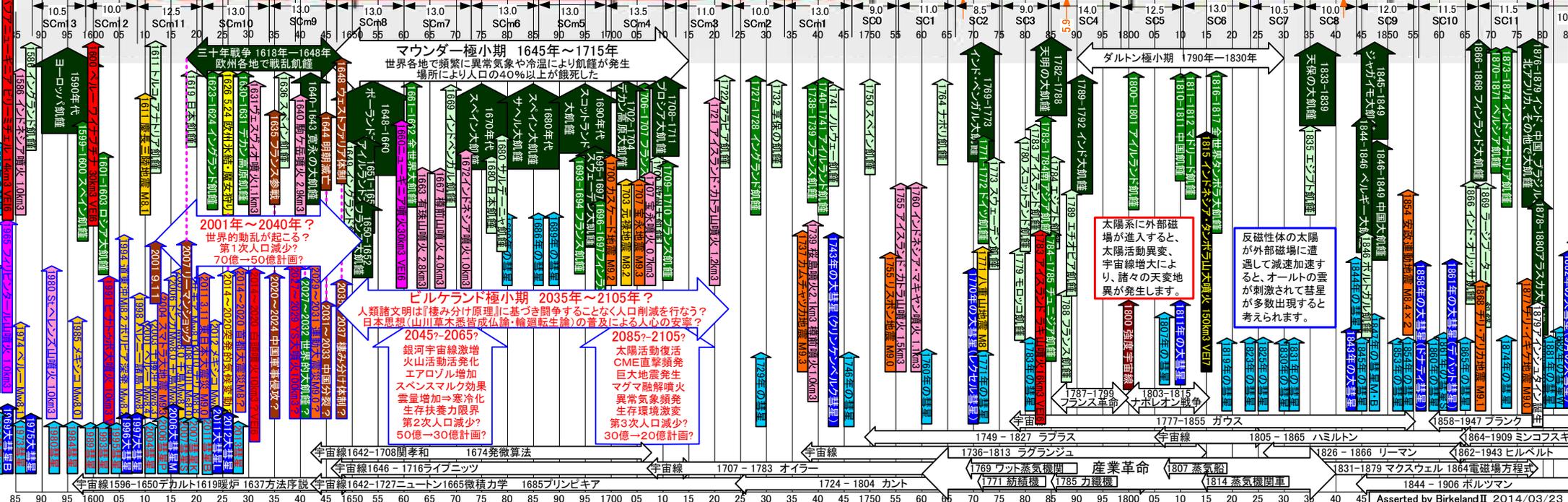
Dalton Minimum

方向転換した反磁性体太陽を銀河プラズマフィラメント磁場の壁が追撃して加速しました。追撃動作は19c末~20c初頭にもありました。

Maunder Minimum

反磁性体である太陽と銀河プラズマフィラメントの外周を取り巻く銀河プラズマフィラメント磁場の壁が衝突して、太陽は跳ね返り運動を行いました。

残念なことに、ガリレオが望遠鏡による太陽黒点の観測を始めた1609年以前の黒点データはありません。しかし幸いなことに、ガリレオが残してくれたマウンダー極小期突入期のおかげで我々は今、近未来を知る事が出来るのです。



2001年~2040年? 世界的動乱が起こる? 第1次人口減少? 70億→50億計画?

ビルケランド極小期 2035年~2105年? 人類諸文明は『棲み分け原理』に基づき競争することなく人口削減を行なう? 日本思想(山川大英本善成伝論・輪廻転生論)の普及による人心の安寧?

2045~2065? 銀河宇宙線激増 火山活動活発化 エアロゾル増加 スペンスマルク効果 雲量増加⇒寒冷化 生存培養力限界 第2次人口減少? 50億→30億計画?

2085~2105? 太陽活動復活 CME直撃頻発 巨大地震発生 マグマ融解噴火 異常気象頻発 生存環境激変 第3次人口減少? 30億→20億計画?

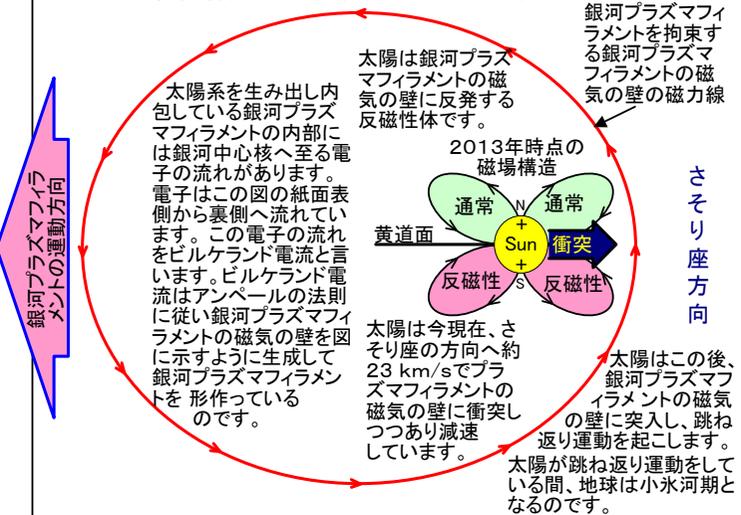
太陽系に外部磁場が進入すると、太陽活動異常、宇宙線増大により、諸々の天変地異が発生します。

反磁性体の太陽が外部磁場に遭遇すると減速加速すると、オールの雲が多数出現すると考えられます。

- 1596-1650 デカルト
- 1642-1708 関孝和
- 1642-1727 ニュートン
- 1646-1716 ライブニッツ
- 1654 発微算法
- 1655 プリンピキア
- 1674-1783 オイラー
- 1724-1804 カント
- 1736-1813 ラグランジュ
- 1769 フット蒸気機関
- 1771 紡績機
- 1775 力織機
- 1785 力織機
- 1814 蒸気機関車
- 1826-1866 リーマン
- 1831-1879 マクスウェル
- 1864 電磁場方程式
- 1864-1909 ミンコフスキー
- 1858-1947 ブランコ
- 1884-1906 ボルツマン

人類文明存続プロジェクト

プラズマ宇宙論による銀河プラズマフィラメントの断面図



[1] 人類文明存続の危機到来は既に明確です。

日頃の異常気象も問題ですが、太陽圏の果てにL(エル)字のりボン構造が発見され太陽が4重極の異常構造となっております。

木星や土星で異常現象が観測されてもいます。異変は太陽系全体に広がっております。

プラズマ宇宙論によりますと異常現象の全ての原因は太陽が太陽圏の外側の磁場(銀河プラズマフィラメントの磁気壁)に衝突を始めたからであるとのことです。

70億人にまで人口爆発してしまった人類は、これから生存環境の異変を迎えようとしているのです。まさに人類文明存続の危機が迫っているのです。

この人類史的危機に際して積極的に対処するには、乾式核廃棄物再生処理施設を稼働させ、核燃料を確保し、新型4S高速原子炉及びサバイバルプラントを大量生産して全世界人類諸文明社会へあまねく供給する方策があるのです。

その際、日本政府は、現行のICRP(国際放射線防護委員会:ユダヤ金融グローバリストの傀儡組織)による詐欺的低線量放射線防護基準(1mSv/年=0.000114mSv/h放射線は累積)を破棄し、最新の現代医科学的放射線防護基準(1000mSv/h放射線は累積せず)としなければなりません。

即ち、日本は先祖を焼き殺したユダヤ金融グローバリストにはめられた額木(戦後レジーム)から脱しなければならぬのです。

[2] 新型4S高速原子炉システムの特徴と展望

(1) 新型4S高速炉は出力1万KW(10MWe)、小出力です。しかし発展途上国ではこのエネルギーで1万人が生存可能なのです。以下、全人類70億人に30年間で70万基供給する事を想定します。

- ① 金額は発電設備運搬設置維持費込みで30年間リース代10億円位です。毎月のリース代は300万円弱で、住民一人毎月300円弱です。つまり基本電気料は毎月一人300円です。
- ② 支払いは原則日本円、物納可とします。(滞納可とします)
- ③ リース契約は国家間で行い、支払い能力の無い国には日本政府がODA(実質供与)で対処し、原則、非反日を確約する事で供給します。
- ④ 量は日本全国19箇所の原子力発電所です。
- ⑤ まず旧型巨大原子炉から大量に排出された核廃棄物を原子力発電所に設置した乾式核廃棄物再生処理工場に核燃料に再生します。
- ⑥ 次に、原子力発電所内に設置した新型4S高速炉生産工場に新型4S高速炉を製造後、再生核燃料を新型4S高速炉に充填し封印します。工場を連結して一貫生産します。原子力発電所を生産工場とするのは将来、旧型巨大原子炉を廃炉にする為と雇用対策の為です。
- ⑦ 輸送と設置は輸送艦とエアクッション揚陸艇、運搬設置専用車両、道路工事重機等々を用いて日本国軍が世界展開して行います。世界中のあらゆる場所に設置可能です。地下サイロに設置して、頑丈な落し蓋で破壊防衛する事も可能です。日本国軍が世界展開する理由は、この事業がエネルギー争奪戦争の防止を目的とする国家安全保障事業だからです。従って、ICRPの異常な低放射線防護基準の例外扱いとなるのです。
- ⑧ 量産計算式 70万基÷((18+1)箇所x360日x25日)+1は六カ所村です。量産数は原発一箇所あたり一日4基です。
- ⑨ 30年後に原子炉を回収します。それ故に、国家間リースなのです。回収した原子炉から内蔵核燃料を取り出し、乾式核再生処理をまた行い新規製造した新型4S高速炉の核燃料とします。資源を使い尽くす完全な核燃料サイクルなのです。国家間リース条件に侵略的地域紛争の禁止条項を設け、新型4S高速炉の供給を受けた国には侵略的地域紛争を起こせなくさせるのです。

- (2) 機械類を全て一個のカプセルに収めいかなる事故も極小化します。動く部品が無く、部品数が少なく故障の確率はほぼゼロです。
- (3) 炉心直径0.85m、炉心高さ1.5m、非常にコンパクトです。
- (4) 金属核燃料30年間交換不要です。核燃料を充填・封印して出荷します。核燃料には核兵器転用不可能成分を混入し核拡散不可能です。
- (5) 負荷追従方式のため制御棒が無く、原子炉運転操作が不要です。
- (6) 原子炉運転立ち上げ時を除き外部電源供給は原則不要です。内蔵原子力電池ユニットの電源だけで30年間自動運行します。暗号化通信により常時監視保全もします。緊急事態の発生時には日本国軍を急派し対処します。
- (7) 超小型、超安全のため、都心部、工業団地、僻地、離島、砂漠、等々どこにでも設置可能です。船舶にも搭載可能です。電源船の供給が考えられます。
- (8) 二次ナトリウム系合理化で全部をカプセル内に一体化しており、輸送・据付が容易であり、現場での工事が事実上ありません。
- (9) 1万キロワットと小容量で、冷却水遮断による緊急停止でも表面放熱空冷する冷却構造を設置現場地形で形成しておき、自然冷却安定します。
- (10) 設置面積200㎡(14m四方、60坪)、非常にコンパクトです。
 - ① 現行の大型原子炉(100万キロワット)を置き換えるにはタービン建屋横に6千坪(20反)の土地を確保し、新型4S高速炉を100基接続して、旧型巨大原子炉を新型4S高速炉の多段システムで置き換えてきます。
 - ② 現行の火力発電所についても同様でタービンと発電機はそのまま利用して新型4S高速炉多段システム原子力発電所に改造できます。
 - ③ 現行の変電所内に必要容量分だけの新型4S原子炉と発電設備を設置して、配電網はそのまま利用し送電網を廃止できます。
- (11) 新型4S高速炉から無尽蔵に発生する高温高圧水蒸気を直接利用して発電による電力だけではなく、
 - ① 水素燃料製造プラント、
 - ② 海水淡水化プラント、
 - ③ 水処理プラント、
 - ④ 金属精錬プラント、
 - ⑤ 都市鉱山再生プラント、
 - ⑥ 植物工場プラント、
 - ⑦ 畜産工場プラント、
 - ⑧ 養魚工場プラント、
 - ⑨ 藻類養殖燃料油生産プラント、
 - ⑩ 深海に眠るメタンハイドレートの融解採集、等々、サバイバルプラント等が容易に構築可能です。サバイバルプラントの供給も日本は積極的に行なうようにします。
- (12) 日本は新型4S高速炉とサバイバルプラントを中心に据えた数万人規模の自立存続地産地消型都市を多数構築し社会運営実践する事で、生存環境の極度な悪化や全面核戦争においてもこの新型都市による分散型文明社会の存続可能性が極めて高い事を実証します。即ち日本は地球マクロ生命体(ガイア)にとって矛盾しない人類文明のあり方を実践し人類文明の永遠存続を啓蒙するのです。

人類文明存続プロジェクト

[3] 文明存続危機に夢の原子炉で対抗せよ

プラズマ宇宙論による近未来予測では、銀河プラズマフィラメントの内部にある太陽が銀河プラズマフィラメントを形成する銀河プラズマフィラメントの磁気の壁に衝突を始めた為に、

- ① 2022年頃にかけて異常気象の頻度・規模・激しさはますます増大し、宇宙線量はICRPの基準を上り、放射線バニックが予測されます。
- ② 2027年頃には急激に太陽活動が復活し、巨大太陽フレアが幾度も発生してCME(コロナ質量放出)や太陽フィラメント噴出の地球への直撃によって、大規模異常気象や巨大噴火、巨大地震などの多くの天変地異、電力情報通信ネットワークの破壊が起こると予測されます。
- ③ その後、2035年頃から太陽活動は長期の停滞期となり、大気白濁化によって地球は70年以上続く小氷河期となると予測されるのです。

このような生存環境の異変に際して、70億人以上にまで人口爆発してしまった人類社会の状況は急激に緊迫して化石燃料や食料などの資源供給国は資源の抱え込みを行い先進国は防御要塞化する事でしょう。

残された発展途上国、無資源国こそが人口爆発の当事国なのですが、彼らは生存の手段であるエネルギーや食料などの供給を絶たれ、このままでは、国家社会が崩壊し、世界は数十億人の難民で溢れかえる事となると予測されるのです。

国を閉ざした資源国や先進国も、結局、溢れ返る数十億人の難民の流入を抑えることなどできずに、やがて国内治安は乱され、テロが頻発して、国家社会は同様に崩壊してしまうの問題でしょう。

このように想定される人類文明社会存続の危機に際して、有効な手段とは、全世界の人類達に、あまねく存続に足るエネルギーとサバイバルプラントを供給してやり、自給自足・自立存続できるように指導援助する事なのです。

しかし、化石燃料は偏在し、しかも尚、枯渇が見えているのです。即ち、石油天然ガスは全世界需要の100年分は明らかに無いのです。

上記想定される人類文明存続危機の解決策となるのが、日本人が発明した新型4S高速炉による無尽蔵なエネルギー供給と日本の得意とする海水淡水化プラントや植物工場などのサバイバルプラントの全世界への供給なのです。

新型4S高速炉を動かす核燃料について、今現在旧型巨大原子炉から排出され世界中に大量に溜まってしまい、処分に困っている核廃棄物、及び、核兵器削減交渉により破棄され、これまた処分に困っている核弾頭、これらを積極的に利用するのです。

この両者を乾式核再生処理法により再生処理する事によって、新型4S高速炉を動かす核燃料に蘇らせることが可能なのです。そして、負荷追従方式の新型4S高速炉は30年間核燃料補給無しに、専門家による運転管理も無しに、自動運転可能な夢の原子炉なのです。

我々日本人は、乾式核再生処理施設を稼働させ、核廃棄物や破棄された核兵器から核燃料を取り出し、夢の原子炉新型4S高速炉を大量生産して、この再生核燃料を充填封印し、世界中にあまねく供給することが可能なのです。

また、あらゆる種類のサバイバルプラントを大量生産し、世界中に供給し自給自足・自力存続を指導し実現を促す事も可能なのです。

我々日本人は己の能力を知った上で、70年以上続く生存環境の悪化に対抗して、人類諸文明社会を存続させるために、持てる能力のすべてを発揮すべきなのです。

なぜならば、先祖伝来の日本文明とは道義文明であるからなのです。

[4] 新型4S高速炉による高放射線廃棄物の消滅

現在、日本全国の旧式巨大原子炉から排出された核廃棄物が大量に溜まり、その処分をどうするかが大問題となっております。

この大問題解決の為に六ヶ所村に建設中の核廃棄物再生処理施設がありますが、それはパイプジャンルの湿式核再生処理施設なのです。確かに湿式核廃棄物再生処理法は不純物を完全に取除いた核燃料を得るには性能が勝ります。

即ちそれは兵器用プルトニウムを得る方法でもあるのです。核武装の可能性を残す為、湿式核廃棄物再生処理法が採用されたと考えられます。

ところが、今現在、ICRP(国際放射線防護委員会)の異常な低線量放射線防護基準とそれに基づくIAEA(国際原子力機関)の執拗な査察が邪魔をして数兆円の巨費を投じても未だに稼働出来ないでいるのです。ICRPが放射線恐怖症を洗脳喧伝し、IAEAが現核保有国以外の核保有を阻みます。こ奴らとはまさにタッグを組んだ2つの国際的謀略組織なのです。

ところで、乾式核廃棄物再生処理法は兵器用プルトニウムを得るには不純物が混入し性能が劣ります。

しかし、簡便で安価であり、不純物が混入していても高速原子炉用核燃料としては問題なく、純粋に核の平和利用するにはかえって勝っているのです。

技術的にはチタンの精錬などで既実績があり、数百億円のカネをかければ乾式核廃棄物再生処理施設は今すぐにでも完成します。

尚且つ、乾式核廃棄物再生処理法での処理費用は湿式核廃棄物再生処理法に比較して十六分の二であるとも言われているのです。

そして乾式核廃棄物再生処理施設は簡便で安価で小型なために一箇所に統合する必要がなく、現状の原子力発電所の敷地内に設置する事が可能なのです。

核燃料サイクルを完成させることを建前に湿式核廃棄物再生処理法に巨費を投じてきましたが、乾式核廃棄物再生処理法と言う解決策がある以上、国は核廃棄物再生処理方式を変更するのは当然なのです。

- 旧来型原子炉から排出された核廃棄物処理問題の解決法として、
- ① 現状の原子力発電所内に乾式核廃棄物再生処理工場を設置し、
 - ② 新型4S高速原子炉の量産工場も設置し、
 - ③ 再処理核燃料を新型4S高速炉に充填封印して全世界に供給して、
 - ④ 高速炉の内部で高放射線廃棄物を核改変消滅させる事が考えられるのです。

即ち、乾式再処理核燃料には高放射性物質も含まれますが新型4S高速炉の中で30年間高速中性子を照射することによって高放射性核物質は非放射化するか半減期数百年の低放射性核物質に核改変してしまうのです。

このように新型4S高速原子炉の高速中性子線照射による高放射性核廃棄物の原子核改変消滅方式こそが旧型巨大原子炉から排出された大量の核廃棄物を処分する極めて合理的で有効な手段なのです。

また70億人にも人口爆発してしまった人類は、生存環境の異変を生き抜くためのエネルギー源を必要としており、この人類諸文明社会の存続危機への対抗策が新型4S高速炉の全世界への供給でもあるのです。

新型4S高速炉を量産し再生核燃料を充填封印して全世界に供給する施策とは2つの大問題を解決する極めて現実的で有効な手段なのです。

[5] 日本文明よ『人類文明存続の大義』を掲げて生き続けよ！

周期的に襲いかかる宇宙的規模の生存環境の悪化に際して400年前のマウンダー極小期(小氷河期)では、30年戦争や度重なる飢饉と伝染病(ペスト)の蔓延で人類人口の大幅な減少がありました。幸いなことに人類諸文明は大規模に滅亡することまではありませんでした。しかし今般予想される小氷河期襲来では、人類人口が70億人を突破した状況であらゆる事態は起こるのであって、人類史を最初から紐解いてもこのような未曾有の危機的状況を人類は経験してはいないのです。まさしく人類諸文明社会は各々存続の危機を迎えているのです。

21世紀となり、もう既に宇宙的規模の生存環境の悪化は度重なる異常気象や巨大地震、火山の噴火によって顕在化しております。伴ってアメリカ合衆国は9、11事件を起こし、テロとの戦いを宣言して中東に攻め入り故意に敗北して世界の警察官役の放棄を宣言しました。またアメリカ合衆国はサブプライムローン破綻させリーマンショックを起こし、世界経済の取締役を同様にも放棄しつつあるようです。おそらくこれから、アメリカ合衆国は政治経済の重点を国内に移し、世界との関係性をなるべく減らして防御要塞化する国家戦略なのでしょう。

ところで我々日本人は先祖伝来の日本文明社会を存続させるため、まずは多様な人類諸文明社会を存続させる事、即ち、日本の持てる全ての文明力を人類文明存続に投入し万策を尽す事を行い、やむを得ない場合に限り防御要塞化する国家戦略を実行すべきだと考えられるのです。

何故ならば、先祖伝来の日本文明とは道義文明なのであって、父祖の世代が命を捧げて戦った大東亜戦争とは道義に基づく聖戦であつたからなのです。即ち、我々現世代日本人は、人類文明存続の危機に際して人類文明存続の大義を掲げ、持てる文明力を人類諸文明社会の存続に捧げるべきなのです。そうする事によって、大東亜戦争の大義の正当性を主張し、国連の旧敵国条項を撤廃させ、東京裁判無効宣言を勝ち取り、戦後レジームの脱却を完全に行えるからなのです。またそうする事によって、多様な人類文明と共に当然日本文明を存続させ、人類世界の中で日本文明が存在する意義を明確にして、先祖伝来の道義文明日本のあり方を未来世代に正しく継承できるようにするからなのです。

上記日本の崇高なるプロジェクトに対して、反抗するのは、大東亜戦争時に日本が掲げた植民地解放の大義を抹殺した結果、宇宙的規模の生存環境悪化に際して日本が掲げる人類文明存続の大義も同様抹殺した、いつまでも日本を貶めておきたい者達、即ち人類社会のルールを弱肉強食のダーウィニズムとしておきたい選民主義者たちなのです。選民主義者の正体とは、世界経済の秩序維持という人類全般の要請を逆手に取って、諸国家に寄生しながら全世界を金融経済力で牛耳るユダヤ人の一部勢力であり、その傀儡の欧米諸国内の一部勢力、同様に傀儡で反動的な中国人一部勢力、同様に傀儡で反動的な韓国朝鮮人一部勢力、即ち、国家を否定し人類文明の多様性保存など価値と認めない無慈悲で野蛮な市場原理主義勢力であり、世界支配を目論む選民主義者・弱肉強食ダーウィニズムグローバルリスト勢力全般なのであります。

奴ら選民主義者・弱肉強食ダーウィニズムグローバルリスト勢力は、奴隷貿易経済、植民地略奪経済、第一次大戦、独裁共産革命、世界恐慌、ナチス台頭、第二次大戦、無差別都市爆撃、原爆投下、東西冷戦、……これまでの人類史上のあらゆる野蛮な状況を全人類に強要したのです。奴ら選民主義者・弱肉強食ダーウィニズムグローバルリスト勢力の思考を鑑みれば、まったく野蛮にも、人類文明存続危機を人類人口強制削減の機会と捉え、人類文明の相互破壊を画策してくると予想されるのです。

しかし、道義文明である我が日本は人類文明存続の大義を掲げ、人間存在が善である事を訴え、多様な人類諸文明を味方に付けて、人類文明多様性保存の為に具体的施策、即ち、棲み分け原理に基づく自給自足・自立存続社会の構築を促進し、その結果として無理のない人口削減と人類諸文明社会が存続可能な栄誉ある孤立主義体制の構築を訴えて、断固として人類文明存続プロジェクトを推進すべきなのです。何故ならば、先祖伝来の道義文明である日本文明の教えとは、『輪廻転生論に基づく山川草木悉皆成仏論』なのであって、選民主義など超越しており、文明存続の原理とは『棲み分け原理・共生原理』であると我々日本人は歴史経験し認識理解しているからなのです。